

16日 月曜

コリント I

7:25 処女のことについて、私は主の命令を受けてはいませんが、主のあわれみによって信頼できる者として、意見を述べます。

7:26 現在の危急のときには、男はそのままの状態にとどまるのがよいと思います。

7:27 あなたが妻に結ばれているなら、解かれたいと考えてはいけません。妻に結ばれていないのなら、妻を得たいと思ってはいけません。

7:28 しかし、たといあなたが結婚したからといって、罪を犯すではありません。たとい処女が結婚したからといって、罪を犯すではありません。ただ、それらの人々は、その身に苦難を招くでしょう。私はあなたがたを、そのようなために会わせたくないのです。

7:29 兄弟たちよ。私は次のことを言いたいのです。時は縮まっています。今からは、妻のある者は、妻のない者のようにしていなさい。

7:30 泣く者は泣かない者のように、喜ぶ者は喜ばない者のように、買う者は所有しない者のようにしていなさい。

7:31 世の富を用いる者は用いすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。7:32 あなたがたが思い煩わないことを私は望んでいます。独身の男は、どうしたら主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。

7:33 しかし、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、

7:34 心が分かれるのです。独身の女や処女は、身もたましいも聖くなるため、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。



Bible Reference
聖書の記述

7:35 ですが、私がこう言っているのは、あなたがた自身の益のためにあって、あなたがたを束縛しようとしているのではありません。むしろあなたがたが秩序ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるためなのです。

7:36 もし、処女である自分の娘の婚期も過ぎようとしていて、そのままでは、娘に対しての扱い方が正しくないと想い、またやむをえないことがあるならば、その人は、その心のままにしなさい。罪を犯すわけではありません。彼らに結婚させなさい。

7:37 しかし、もし心のうちに堅く決意しており、ほかに強いられる事情もなく、また自分の思うとおりに行なうことのできる人が、処女である自分の娘をそのままにしておくのなら、そのことはりっぱです。

7:38 ですから、処女である自分の娘を結婚させる人は良いことをしているのであり、また結婚させない人は、もっと良いことをしているのです。

7:39 妻は夫が生きている間は夫に縛られています。しかし、もし夫が死んだなら、自分の願う人と結婚する自由があります。ただ主にあってのみ、そのものです。

7:40 私の意見では、もしそのままにていられたら、そのほうがもっと幸いです。私も、神の御靈をいただいていると思います。

クリスチヤンや教会のあり方が聖書的であるということは何よりも重要なことです。どんな人間的な事情があろうとも、人間を超えた不思議な現象があったとしても、聖書から離れてしまっては、神の栄光も勝利も、解決も前進も、維持も存続も望めません。そればかりか異端となって神に敵対するものにならないとも限りません。

当然パウロは聖書的です。しかし聖書があらゆる時代のすべての事柄に指示を与えているわけではありません。そこでパウロは「主のあわれみによって信頼できる者として、意見を述べ」ています。これもまた聖書的な態度です。ただしそれは「信頼」が必要で、信仰の共同体の中で認められる必要があります。

「危急のとき」とは終末が考えられていたわけですが、その後の迫害に関する聖書は考えておられ、結婚のことをパウロに語らせたのでしょう。様々な事例に共通するように、結婚はただ自分の願いを優先させるのではなく、主のみこころと主のときを熟慮し、主の栄光と証のためにするべきです。

しかし「束縛しようとしているのではありません。」とあるように、結婚は個人の意思が尊重されるものです。そしてそれだけに強く確かな聖書的信仰が必要なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？